



■発行／公益財団法人 愛媛県スポーツ振興事業団

■愛媛県武道館

開館時間／午前9:00～午後9:00

休館日／毎週月曜日（月曜日が休日の場合は、直後の休日でない日）
年末年始

住所／愛媛県松山市市坪西町551番地

T E L／089-965-3111

F A X／089-965-3388

ホームページ／<https://ehime-spa.jp/budoukan/>

よく～る／<https://yoyacool.e-harp.jp/ehime>

第六十二号

TOP I X

- 1 愛媛女子柔道の活躍(柔道)
- 2 【第24回全日本男子なぎなた選手権大会】
【皇后盃第69回全日本なぎなた選手権】報告(なぎなた)
- 3 2024年の主要大会等連盟行事を振り返って(相撲)
- 4 イベントのお知らせ

柔

道

Judo

愛媛女子柔道の活躍

執筆／（一財）愛媛県柔道協会 理事長 田窪 将行

はじめに紹介するのは、愛媛県立松山工業高校を練習の拠点としている「廣瀬順子選手」です。廣瀬選手は、2024年にフランスで開催されたパリパラリンピックの女子柔道57キロ級に出場し、日本女子柔道で初となる金メダルを獲得しました。また、当協会が主催する強化練習会にも積極的に参加して選手に直接指導するなど、愛媛女子柔道の競技力向上に多大なる貢献をしています。愛媛女子柔道の発展のために、会員一同、更なる活躍を期待しています。



次に紹介するのは、当協会女性理事が中心となって開催している「えひめ女子柔道交流会」です。1、2か月に1度、愛媛県武道館で開催しています。未経験者、初心者、過去に柔道をしていた方など誰でも参加できる会です。愛媛の女子柔道インスタグラムのDMや、協会HPに掲載する申込フォームから申し込んでいただけます。柔道衣を持っていない初心者やお子様のために、柔道衣の貸し出しを行っています。柔道をすることで、身体を強くし、仲間との絆を深め、礼儀を身に付け、自分に自信が持てる子供を育てていくこともできるので、連絡をお待ちしています。

なお、当協会における女性理事の割合は20%で全国的に見ても高い割合ですが、今後も女性理事の割合を増加させるため、女性の活動しやすい環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。

結びに、一般財団法人愛媛県柔道協会は、愛媛県下の柔道の普及振興を図ることにより、柔道精神を養い、体位向上を図ることを目的として活動しています。その目的を達成し、青少年の健全育成に尽力するため、当協会会員一同、更に努力していきたいと思えます。



【第24回全日本男子なぎなた選手権大会】 【皇后盃第69回全日本なぎなた選手権】報告

執筆／愛媛県なぎなた連盟 副理事長 佐伯 真紀

令和6年12月7日(土)愛媛県武道館で「第24回全日本男子なぎなた選手権大会」が開催されました。35都道府県、6大学より57名の選手が出場し力強い入場行進の後熱戦が繰り広げられました。開会式では全日本なぎなた連盟久保素子会長より、総ヒノキで作られた武道館の清浄された空気を存分に吸って、培ってきた力を発揮されるよう健闘を祈っています。と激励の言葉が述べられました。

男性のスピード感ある気迫に満ちた試合が続き、世界大会覇者でもあり、今大会5連覇中の増田道仁選手(兵庫県)が順調に勝ち進みました。決勝戦は、準決勝で父である増田良明選手を破り勝ち上がった松田拓斗選手(石川県)との対戦。相手の動きを上手く捉え一瞬の隙を攻め、鮮やかに二本を決め、増田道仁選手が見事6連覇達成を果たしました。

男子選手権大会に続き12月8日(日)には「皇后盃第69回全日本なぎなた選手権大会」が開催され、44都道府県51名の精鋭が集まりました。開会式では、6連覇中の林田智笑選手の、「(中略)沢山の方々の記憶に残る大会になるよう感謝を込めて競技する事を誓います」と選手宣誓がありました。

試合に先立ち、公開演武が行われました。「全日本なぎなたの形」、「直心影流薙刀術」、「天道流薙刀術」が披露され、会場が静まり息をのむ素晴らしい演武が披露されました。

皇后盃は、なぎなた最高峰の試合らしい、鍛錬を積み重ねた選手達の緊迫した5分間の目が離せない戦いとなりました。今大会の注目は6連覇中の林田智笑選手(大阪府)の試合でした。林田智笑選手らしい切先を攻める隙のない安定した試合運びで、得意の面やコテを決め順調に決勝戦まで進みました。決勝戦は初出場の福岡歩選手(奈良県)との対戦でした。林田選手が上手く間合いを取り終始主導権を握り、渾身の面を決め前人未到の7連覇を達成しました。愛媛県から出場した八木夢依選手もよく健闘し初めて2回戦を突破し、ベスト16となり活躍してくれました。

試合後には、全日本なぎなた連盟選抜チーム対愛媛県剣道連盟選抜チームの異種試合が行われ、会場が大いに盛り上がり、3勝1敗1引き分けでなぎなたが勝ちました。

二日間にわたった激闘は男女共に連覇更新となり、今後もこの記録がどこまで続くのが注目されることです。昨年に引き続き愛媛県で開催された大会でしたが、多くの方々に感動していただけた素晴らしい大会になったと思います。愛媛県なぎなた連盟久保素子会長のおもてなしの心が伝わったのだと感じております。最後になりましたがご尽力いただいた関係各位の皆様へ心よりお礼申し上げます。



2024年の主要大会等連盟行事を振り返って

執筆／愛媛県相撲連盟 理事長 山口 貴史

コロナ禍も明け、2023年からは国内での大会はもとより国際大会等の開催も通常どおり開催される状況となり、2024年に入ってからほとんどの大会が感染拡大防止対策を取らずに大会運営を実施しています。

愛媛県相撲連盟(以下「連盟」という。)においてもコロナ禍での大会運営に対応するため、ガイドラインを作成(マニュアル化)し対応して参りましたが、2024年からはすべての主催する大会で感染拡大防止対策は行わず開催してきました。また、数々の全国大会へ小学生から社会人まで派遣しましたので、その中で主な行事について振り返ってみたいと思います。

まず、9月に開催された「わんぱく相撲女子全国大会」は、主催は松山青年会議所、主管は松山相撲連盟の大会で連盟は後援・大会運営協力という立場で審判や進行など競技運営に尽力しました。

連盟は、えひめ国体や全日本実業団選手権、全日本女子選手権などの大規模大会をこれまで開催しており、大会の成功に充分その役目を果たせたと考えております。

次に「第78回国民スポーツ大会」が九州の佐賀県玄海町で10月に開催されました。少年男子は昨年の鹿児島特別国体で団体優勝しており、県や周囲の期待も大きくプレッシャーもありましたが、1回戦、2回戦を全勝で勝ち、3回戦で一昨年の覇者で優勝候補の鳥取県でした。昨年は予選と決勝トーナメントで2度対戦し2勝した相手ですが、昨年とは愛媛のメンバーも大幅に代わっており胸を借りるつもりで挑みました。結果は惜しくも敗れましたが、力は十分出し切ったと思います。

また、成年男子も3勝7点で予選を通過し4年ぶりの入賞に期待が掛かりましたが、熊本県に惜しくも敗れました。相撲内容も良く選手層も若手に切り替わり、少年男子と同様に来年に繋がる結果となりました。

今後もチーム愛媛で一丸となり強化に取り組んでいきたいと思います。

最後に「第73回全日本相撲選手権大会」と「第37回全日本小学生相撲優勝大会」が12月に両国国技館で開催され愛媛からも社会人1名と小学生6名(4・5・6年各2名)が出場しました。

全日本選手権大会は、過去に準優勝した実績のある山口怜央選手が2年ぶりに出場し、決勝トーナメントに進出し、3回目の入賞を目指したがあと一步のところで入賞を逃し残念な結果となりました。来年は更に精進して上位入賞を果たしてほしいと願うとともに、全日本選手権大会に出場できる選手が増えることを期待したいと思います。

小学生優勝大会は、四国代表として6名が参加し、それぞれの持ち味を発揮して奮闘しました。中でも唯一6年生で今年のわんぱく相撲全国大会で準優勝した実績のある兵頭竜ノ助選手が第3位に入賞し安定した力を魅せてくれました。4月からは中学生になり相撲を続けてくれると思いますが、柔軟性を活かせるよう相撲の基本をしっかりと身に付けて、愛媛の中心選手となるよう頑張ってもらいたいです。

結びに、2024年も多くの大会を開催し、全国大会等へも選手を派遣しましたが、今後は相撲人口の維持や底辺拡大はもとより女子相撲の普及及び強化へ力を注ぐとともに、具体的な事業計画を立て意義のある事業を推進し愛媛県の相撲発展に繋がるよう、役員及び地域の方々などのご支援、ご協力をいただきながら取り組んで参りたいと思います。





愛媛県武道館

スポーツ・
レクリエーション教室

通年開催中!!



バドミントン



ハワイアンフラ



卓球



ストレッチ体操



えひめ愛ヨーガ



太極拳



パンチ&キック
エクササイズ



レクリエーション
バレーボール



ダンベル&
バランスボール



リフレッシュヨガ



ラケットテニス